

電子回路の入門書を執筆

有明高専の石川准教授

九州工学教育協会賞受ける

大牟田市東萩尾町、有明工業高等専門学校（福島健郎校長）電子情報工学科の石川洋平准教授（36）は第十七回九州工学教育協会賞を受賞した。「よくわかる最新電子回路の基本としくみ」の執筆によるもので、入門書として最適な、初心者にも分かりやすく伝える内容が評価された。



賞状と著書を手にする石川准教授

石川准教授は八女工業高校卒業、佐賀大学で工学博士号を取得し、平成十八年、有明高専に着任。同書は二十五年七月、秀和システムから刊行された。「二千冊売ればヒット」とされる専門書の世界で、発売以降、すでに約二千冊が売れており、電子回

路の分野ではたびたびランキング一位になったという。

これから電子回路の勉強を始めようという人を対象としており、初心者にも分かるように書くことを心掛けた。工業高校卒業生という経歴を生かし、工業高校で使われる検定教科書の内容も紹介。ふんだんにコラムも入れて、読みやすくしている。

「最近ではコンピューターでのプログラミングをしたがる学生が多く、アナログ電子回路は敬遠されているが、トランジスタやIC（集積回路）も使えないと、ものづくりはできない。電子回路を好きになってもらうと思って書きました」と

石川准教授。

同賞の表彰式は本月十日、九州大学伊都キャンパスで開かれ、本年度は三人と一団体が受賞した。「毎年、電子情報工学科に入学する学生が約四十人。この本は一カ月で百冊ほど売れている計算になるが、一カ月に百人へ影響を与えていると考えると、その責任の重さをひしひしと感じました」と話している。

共著・単著で第二弾、第三弾も予定。「すごい先生を知ってほしいし、後進も育てたい」と共著は佐賀大学の恩師や若手の研究者と一緒に取り組んでおり、年内には刊行されるという。

（河野 美緒）